特集 令和遣欧少年使節海外派遣事業

令和７年10月16日～25日の10日間、令和遣欧少年使節団として４人の中学生をイタリアへ派遣しました。

これは、１５８２年にキリシタン大名の名代としてローマを目指し、ヨーロッパへ渡った天正遣欧少年使節の偉大な功績を顕彰すると共に、歴史をとおして郷土に誇りを持つ人づくりや、グローバルな人材育成を目的に中学生を派遣しています。

派遣期間中は、友好都市であるキエーティ市に４泊５日滞在し、交流を深めました。

天正遣欧少年使節ゆかりの地へ

ヴァリニャーノさん：写真中央

ローマ・バチカン市国

天正遣欧少年使節が訪れた場所を中心に、ローマ市内とバチカン市国を視察しました。

バチカンでは、袴袴姿でローマ教皇の一般謁見に参加しました。

バチカン美術館では、歴史的な建物や天井画を見学し、まるでその時代にタイムスリップしたような感覚を覚えました。

フィレンツェ

440年前口之津港に降り立った、イタリア人“アレッサンドロ・ヴァリニャーノ巡察師”の子孫であるヴァリニャーニ・ヴァレーリアさんの案内で市内を見学しました。

友好都市キエーティ市との交流

キエーティ市訪問

キエーティ市役所を表敬訪問し、市長と来年度迎える友好都市締結10周年記念について意見交換を行いました。

また、在イタリア日本大使館が主催する「SAKEキャラバン」のイベントにも参加し交流を深めました。

ホストファミリーとの交流

中学生４人は、キエーティ市内などのホストファミリーの家庭で４泊５日のホームステイを体験し、その家庭の子どもが通う学校へ通学してイタリアでの学校生活も経験しました。

最終日には、ホストファミリーと生徒たちは、抱き合って別れを惜しみました。帰国後もメールなどで連絡を取り合い、現在でも交流が続いているそうです。

天正遣欧少年使節 ゆかりの地海外派遣事業

令和７年８月18日～25日の８日間、天正遣欧少年使節ゆかりの地首長会議が主催する海外派遣事業に市内中学生２人をイタリアに派遣しました。

写真：右
増﨑 英太（ますざき えいた）さん
（南有馬中学校３年）

自分が学んだことを人々に発信して、地元でイタリアの歴史に興味を持ってもらう。それがこの事業の趣旨だと考えている。

人との交流で学んだこと、地元の歴史、イタリアの歴史について深く考えて、いかに地元が素晴らしいかを伝えていきたいです。

水田 詩麻（みずた しま）さん
（諫早高校附属中３年）

ローマの街に足を踏み入れた瞬間に目に入った異国情緒あふれる街並みに目を奪われてしまいました。

少年使節たちが訪れた時代とは景色こそ違いますが、彼らが訪れた史跡は少しずつ形を変えながらも今日まで残っています。それらの史跡を訪れることは彼らを知る上で重要だとわかりました。

【イタリア派遣中学生】

※派遣された中学生の感想文を市ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

山下 楓華（やました ふうか）さん
（布津中学校３年）

私がこの事業に参加しようと思ったきっかけは、日本と外国それぞれの文化のよさを知って、それを伝えたいと思ったからです。

ホストファミリーと過ごした中で一番驚いたのは、みなさん日本についてとてもよく知っていることです。キエーティの学校でも、クラスメイトは「アイライクスシ」など日本の好きなものなどを話題に、フレンドリーに話しかけてくれてとても嬉しかったです。たった５日間のホームステイでしたが、離れるのが名残惜しいくらい充実した時間を過ごせました。

コリンズ 陽喜（はるき）さん
（深江中学校２年）

キエーティ市内にあるヴァリニャーノの胸像を見に行った。その顔は、口之津港のものとは違った印象がありました。

銅像の説明パネルに「KYOTO」と並んで「KUCHINOTSU」と刻み込んであり、遠いイタリアの地で自分が慣れ親しんだ名前を見て、とても不思議な気持ちになりました。

フィレンツェは、どこを見ても歴史的な建造物だらけでした。ウフィツィ美術館ではボッティチェリの「春」、「ヴィーナスの誕生」など、そして息をのむような繊細な絵を見ることができ、幸せでいっぱいになりました。

池田 睦大（いけだ のぶお）さん
（南有馬中学校３年）

今回の旅を終えて私はいろいろな人にこの体験を伝えたいと思っています。キエーティの学校での出来事など、一言では伝えられない素晴らしいこの体験は、わたしの中だけで終わらせるのはもったいないと思うからです。

今回の体験は、将来、必ず役に立つと思っています。派遣事業だけではなくセミナリヨの再現授業でつながった「縁」を大切にしていきたいです。一緒に行った仲間たち、向こうで知り合った友達、その他にもいろいろな人と知り合うことができました。

大仁田 理彌（おおにた りみ）さん
（北有馬中学校３年）

ローマ、バチカンに行くと、建物から芸術を感じました。美術館、スペイン広場やトレビの泉にも行ったが、さまざまな所に彫刻がなされており、その壮大で魅力溢れる街並みは「美術の国」そのもので、決して日本にはないものでした。

また、ローマ教皇謁見の日は袴を着ての出席でたくさんの注目を浴びた。今回学んだことを活かし、南島原のグローバル化に向けて取り組んでいきたいです。また、改めて自分の町の歴史を学んで、自分のふるさとに誇りを持ってもらいたいです。